

銀杏

発行所
〒792-0835
新居浜市山根町8番1号
曹洞宗瑞應寺専門僧堂
編集発行 瑞應寺
電話(0897)41-6563
FAX(0897)40-3127
https://zuiji.jp
奇数月1日発行
(振替 01330-2-31918)
瑞應寺
印刷所 東田印刷株式会社

碧巖録物語独語【三十七】

後堂 門原 信典

第十九則「俱胝一指頭 寐語 ⑱」 抑下托上(2)

【評唱】玄沙師備禪師のこと。

玄沙禪師の法孫の玄覺和尚が

尚の前に居たらその指をへし折ってやったものを」と言われたのだが、どんな意味があるのでしょうか「玄沙師備」が「もし儂が俱胝和尚の前に居たらその指をへし折ってやったものを」と言われたのだが、どんな意味があるのでしょうか「玄沙師備」の雲居清錫和尚も「玄沙師備は、俱胝和尚を褒めていたのか、誇っているのか、若し認めているなら何故へし折ってやるなどと乱暴な事を言われたのか、認めないならばどこに間違いがあるのでしょうか」と疑問を呈します。

「俱胝の一指頭」どころか、それに対する玄沙禪師のお示しにも

右往左往するのです。雪峰義存禪師の会下は一五〇〇人とか一七〇〇人と云われていますが、玄沙禪師はそれの中でも抜きん出ていました。

【釣魚船上の謝三郎】

玄沙とは「玄沙院宗一大師」(八三五〜九〇八)の事です。法名は「師備」。ですから「玄沙師備」と云います。出家前の姓は「謝」。三男だったので通称「謝三郎」と呼ばれていました。

『正法眼蔵「一顆明珠」の冒頭に「娑婆世界大宋国、福州玄沙山院宗一大師、法諱師備、俗姓者謝なり。在家のそのかみ釣魚を愛し、舟を南台江にうかべて、もろもろのつり人にならひけり。不釣自上の金鱗を不待にも

ありけん。唐の咸通のはじめ、たちまちに出塵をねがふ。舟をすてて山にいる。そのとし三十歳になりけり。浮世のあやうきをさとり、佛道の高貴をしりぬ。つひに雪峰山にのぼりて、真覺大師に参じて、昼夜に辦道すとあり、このお話は「釣魚船上の謝三郎」と云われています。

【娑婆即寂光浄土・南州の人身すぐれたり】

「娑婆世界」から始まる尊敬の意のこもった丁寧な紹介ですが、ここは見逃せない箇所です。それはこの「娑婆世界」でこそ、お釈迦様に出会い、真の自己の存在を知り、そこから佛道が始まるからです。

そもそも娑婆とは佛敎の言葉で苦悩に満ちたこの現実世界の事です。サンスクリット語の「Saha」が語源で、「苦しみを耐え忍ぶ場所」つまり「忍土」と意識されます。

人生は難儀な事ばかりだけど、それを黙って受けとめ、耐え忍ぶと云う事ですが、自分の思い通りにならない現実を当たり前の事として、それが機縁となり、御佛様の恵みに気付き、そこか

ら出発して自己を見つめ、出来る限り身体と心を調え、懺悔と誓願に生きると云う菩提心が発されるのです。みんな無条件で生かされているのですから自分からは逃げられないし、ごまかすことは出来ません。この無条件と云うのは私の価値観も期待も思惑も一切無くても生かされているという事です。

修証義第五章(正法眼蔵発菩提心の巻)に「この発菩提心、多くは南閩浮の人身に発心すべきなり」とのお示しがあります。

「南閩浮」とは古代インドの世界観で須弥山という高い山を中心し、東西南北に在る大きな島(四大州)の南側の一つ。私たちが住んでいる世界で、南閩浮州・南洲と云います。ジャンブ樹と云う木の事を閩浮と云い、それが多く繁茂しているインドを表し、お釈迦様が出現された現実の世界です。

「東」は東勝身洲。「勝」は「まさる、すぐれる」と云う意味で、勝れた身体が由来です。私達がいつも願っている健康に不安は無いけれど、お金までは保証されてはいない国です。

「西」は西牛貨洲。牛を貨幣

とし、経済が安定しているという事が名前の由来だそうです。西瞿陀尼州とも表記します。これも私達の煩惱を生むお金に困らない国ですが、長生きをしても健康の不安が付きまとう国です。「北」は北俱盧洲、別名を鬱単越といいます。四大洲の中では「人寿千年、夭折無し」と云われるように、お金にも健康にも不安は無く、人類の変わりぬ欲望を最も満たすことから「勝処」と訳されます。四苦八苦も無いので、菩提心も発きやすいし、他人の悲しみや苦しみに心を寄せる事も、共に支えあつて生きることなど思いもしません。さらに南洲に八大地獄、東州、西州には孤地獄、辺地獄という地獄があり、北洲には地獄は無いとされています。

『正法眼蔵八大人覺』にも「たとい人身をうくといへども、三州の人身よし、そのなかに、南州の人身すぐれたり。見佛、聞法、出家、得道するゆえなり」とお示しです。此の四州の中で北州を除く三州に人間として生まれるのが良い、その中でも、この南閩浮州に人として生まれ、生きる事が尊いと説かれて

います。この現実世界を逃れて理想の世界(北洲)を探し求めるのではなく、今ここで南洲に生きる私のまま、御佛様に出会い、その教えを聞き、自分の執着心に気付き、真実の道を歩む事が出来るからです。この「忍土」こそ御佛様の世界、娑婆即寂光浄土と説かれています。

古今東西、私達の苦悩は変わらないのです。神仏にお願いする時に「先ず健康それからお金、自分の思い通りになりますように」と願います。テレビでは健康食品のコマーシャルが延々と流れ、金儲けの欲に付け込む事件は後を絶ちません。人間は命の危うさも、お金の頼りなさも知っているからこそ追いかけるのです。北俱盧洲に生まれてもやがて寿命は尽きます。健康もお金も大事ですが、貪瞋痴の餌食になつてはいけません。

【謝三郎の発菩提心】

玄沙師備禪師は、出家前は自分の事を「釣魚の謝三郎」と云うくらい魚釣りが大好きでした。海でクジラを取った話もあるくらい豪傑だったそうです。福建省の省都福州の南台江

で、多くの人に混じって釣魚を生業とする父親と船を浮かべて釣りをしていました。自分も漁師として一生を終わろうと思っていました。三十歳の時、事も有るうに父親が船から川に落ちてしまいました。溺れて沈みゆく父親を見ると、同時にその先に静かに昇りゆく大きな満月が目に入りました。人の命の危うさと営みの虚しさ、反対に永遠に変わらぬ大自然の姿を知り「嗚呼ここで父親も僕も漁師としての命運が尽きた」と悟り、自分の真実の生き方を探さなければと直感します。

「板子一枚下は地獄」と云われますが、実は今この私も釣魚船上に生きている危うい存在、謝三郎は父親の死を機縁として菩提心が発きました。「出塵」は恩愛も俗世の欲も棄てる事です。そして雪峰義存禪師真覺大師の元で昼夜を分かたぬ辨道に依つて、父親を助けることが出来なかつた自分も(自利)、そして溺死した漁師の父親も(利他)共に御佛様に救われました。

【孤雲懷奘禪師の誓願】

永平寺の二世孤雲懷奘禪師が

宇治の興聖寺におられた頃、実母が重篤との知らせが届きました。当時、制中という修行期間は三日までの他出が許され、二度見舞いに行かれます。しかし禪師は、自分勝手な母への俗情で制中の修行に専念している他の修行僧を悩ませてしまったと懺悔されていました。そしていよいよ臨終の知らせに多くの大衆は面会を勧めたのですが「ここで規則を破つて恩愛に絆されて逢いに行くと、母親を地獄に突き落としてしまふ。『一生黒衣の修行僧として真のお坊さんに成つてくれよ』と出家させてくれた母も喜んではいけません。僕は行かない。願わくば母の追善のために一炷香(線香)一本の燃焼する時間)の坐禅を乞う」と言われたそうです。人情を言い訳にせつかく発願した修行を投げ出して罪を作るか、親を成佛させるか、「一子出家すれば九族天に生ず」これは生半可な決意、修行では到底理解出来得ぬ境界です。

今でも宗門の修行道場では制中の百日間は、原則として外出は出来ません。しかし、私は永平寺に安居中大事な冬制中の

間、実父が四大不調の為無理をお願いして五日間他出しました。約半世紀経った今、佛制に反し大衆一如の行持を乱した未熟さを悔やみながらこのお示しを読ませていただきました。

【不待の行願】

「不釣自上の金鱗を不待にもありけん」

「不釣自上の金鱗」とは、漁師が釣り糸を垂らさなくても、金の鱗を持つ魚が自分から跳ね上がってくる事。「不待にもありけん」しかも漁師も金鱗の魚もそれを待つていないのではないのです。謝三郎が菩提心を発し出家した事は、謝三郎自身も全くの想定外でした。それを「不待」と表現されます。漁師を御佛様、魚を私、金鱗を坐禅とすると、現実の娑婆世界全てが御佛様の世界。私もいつも月に照らされているこの娑婆世界の住人です。すでに御佛様に釣り上げられていたのです。

「大智禪師偈頌」に「万物生成自ずから時有り」とあります。必ず菩提心が起きて金鱗の魚となり「自利利他」の坐禅に出会う時節を一人一人持っているのです。私達人間はいついかなる時も何に於いても自分の満足感を願っています。その恩感を離れた事を「不待」と表現されます。壁を向いて後ろ向きに坐禅するのも、全てを投げだして只管に私の身体と息と心を調えるだけ、「自他一如」ですから同時に私の周りの全てが調う事も願う「自利利他」の姿です。

この唐の咸通年間(八六〇年、八七四年)に禅宗は大いに興隆します。ただ坐禅をすれば良いのではなく、私達の二十四時間の生活の刹那刹那が、坐禅に裏打ちされた「御佛様の不待の行願」として働き続けるのです。

昨年十二月二十五日瑞應寺三十一世村上徳存老師が世壽八十三歳にて遷化されました。常々「日常の茶飯にも三昧に修行することが肝要。これは大切だけど、これはマアいい加減で良い、という事は無い」とのお示しでした。そこに「不待の行願」が重なります。

晩年膝が痛いと言われていましたが、いつも静かに歩みを運ばれていたお姿が思い出されます。(続く)

無意識下の自縄自縛

閉塞性睡眠時無呼吸症候群

— ヒトの喉は塞がりやすい —

高岩寺 来馬明規

東京巣鴨とげぬき地蔵尊高岩寺住職 医師 医学博士
東北福祉大学各員教授 日本禁煙学会役員

【はじめに】

今月は仏教語「自縄自縛」に結びつけて「気がかぬうちに自分の喉を塞いで苦しむ病気」「閉塞性睡眠時無呼吸症候群」のお話です。長い病名ですが、

① 自分の舌が喉を塞ぎ

② 睡眠中に低酸素状態となり

③ それが全身の病気を引き起こす厄介な病気です。(文末附記(1))

平成の年代に発生した大事故(2)をきっかけとして、一般にも知られるようになりましたが、人口の1〜2割軽症を含めると3割がこの病気を発症しているから、そのうちの多くが

【図1】 無呼吸に気がついていない
家人を治療しない
受診し病気が悪化していく



見逃されているという、気づかれにくい病気です。肥満や酒・タバコに依存した不摂生な中年男性の病気と思われがちですが、小柄な女性や、筋肉量の多い人、プロスポーツ選手

にもリスクがあります。健康診断で全部A判定の方が罹っていることもあり、熟練の開業医でも見逃すことがあるような、発見されにくい病気です。【図1】

【自縄自縛とは】

さて、題名の「自縄自縛」についておさらいしてみましよう。日常会話では「自分の言動が自分を束縛して自由に振る舞えずに苦しむこと」三省堂『大辞林』という意味ですが、元々は仏教に由来しています。大乘仏教經典の集大成『大正新脩大蔵經』に次の一節があります。

一切衆生の如来蔵心は本来清浄にして寂靜照了なり
ただ無明倒想によりて自体に殻を成し(中略)
自ら縛して自らを縛し生死の苦を受く
『華嚴五教章衍秘鈔』
『大正蔵』七三卷七百七頁 (3)

現代語訳(筆者抄訳)

生きとし生けるものは、本来清らかな

如来になれる性質を持っている。それなのに無知や迷いによって自分を殻に閉じ込め、自分で縄を引いて自分を縛り上げ、結果として生死の苦しみを受けている。

私たちは自分の執着(自縄)によって自分を苦しめている(自縛)。それに気がつく(縄を解く)ことがさとりへの道筋である、というほどの意味になります。道元禪師は「無縄自縛」即ち実体の無い縄によって自分が縛られている、というより強い表現を示しています。(4)

一方、筆者が睡眠時無呼吸症候群を「自縄自縛」と表現する由縁は、「自分の内臓によって肺に空気が届く道が塞がれている」「自分が摂取する栄養が余計な脂肪となって内臓に沈着し、空気が届く道を圧迫する」という意味です。

【喉の多機能を実現した副作用】

ヒトの喉と首の機能を示します。

- (a) 舌咽頭・喉頭
呼吸と摂食(嚥下)の両立
発声・発語
- (b) 免疫防御(扁桃腺)・味覚
- (c) 頭部と周囲の筋肉
- (d) 唾液腺・甲状腺・副甲状腺
唾液分泌・ホルモン分泌

私たちが呼吸によって酸素を得て二酸化炭素を出すことは、生きるための最も基本的な要素です。それなのに喉から肺に至る空気の通り道は、構造的な余裕に乏しく、意外にもちよつとした外乱で塞がる性質があります。

なぜなら前記のような、多様な臓器組織が喉から首にかけて存在し、これらが時として喉を塞ぐからです。

① 進化によって増えた病気
ヒトは進化とは裏腹に、平坦な顔と小さな顎・直立姿勢、言語の進化に伴う喉の形の変化によって、喉が塞がりやすい特殊な動物になってしまったのです。野生動物は仰向けで寝ることもほとんどありません。

② 喉は骨や軟骨が支えていない
咽頭・喉頭は、口から入った飲食物を後方の食道に、鼻から入った空気を前方の気管に送り、声帯は発声・発語を担当しています。これらの機能を円滑に実現するために、

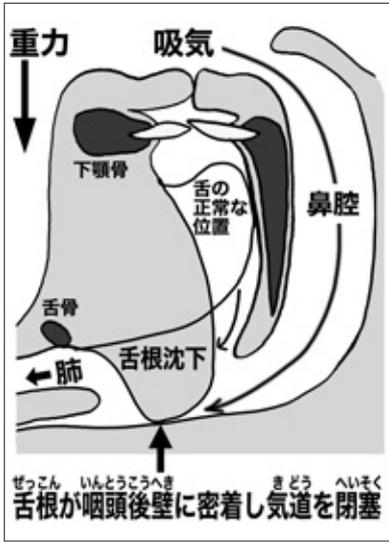
ヒトの喉は単純な空気の通り道ではなく、筋肉でできた「やわらかい筒」になっており、呼吸嚥下・発声・発語に関与しています。しかし、骨や軟骨にサポートされていないので、肥厚・筋力低下や、周囲からの圧迫などによって、容易に閉塞や虚脱が起こります。

③ 呼吸で喉に陰圧が発生
ヒトは胸と腹を上げて空気を吸い込みますので、胸から喉の中が陰圧になり、咽頭の内腔が狭くなり虚脱しやすくなります。この性質を逆用したのが閉塞性睡眠時無呼吸症候群の中心的な治療法CPAP(持続陽圧呼吸療法)です。

④ 舌は大きな肉の塊
「舌は下顎骨(下あご)や、ハンガーのような骨(舌骨)でぶら下がる大きな肉塊であり、自由自在に動き、摂食や会話に大活躍する一方で、

(a) 仰向けになると重力の方向と舌の落ちる方向が一致 (b) 加齢や

【図2】 舌根沈下が無呼吸の主な原因
①仰向け ②肥満(喉の脂肪沈着) ③睡眠で筋緊張低下 ④あごが小さい ⑤喫煙飲酒 ⑥睡眠薬使用などの悪条件が重なり 大きな肉の塊「舌」が落ち込んでのどを塞ぎイビキや無呼吸を引き起こす



運動不足による筋力低下 (c) 睡眠

による筋肉の緊張低下などが重なること、舌の根元が空気の通り道に落ち込み、空気の通り道を塞ぐ危険な構造物になります。これが「舌根沈下」という状態です。【図2】

このように、ヒトの喉は多くの要素が微妙なバランスで成り立っています。閉塞性睡眠時無呼吸症候群は、このバランスが大きく崩れることが原因と考えられています。呼吸の安定は仏道修行のなかで、身心を調える重要な基盤ですが、あらためて本稿の主題に即すと、**自縄自縛↓自舌自縛**

自分の舌が自分の喉を縛る

(舌根沈下で気道が閉塞する) というわけです。【図2】

【無呼吸は程度問題】

「無呼吸」は異常の判定が難しい症状です。睡眠中に数回程度の短い無呼吸が起ころとも、異常とはとらえません。つまり無呼吸の長さや回数によって病気にも、正常にも判定されるのです。

無呼吸と病気の定義を示します。

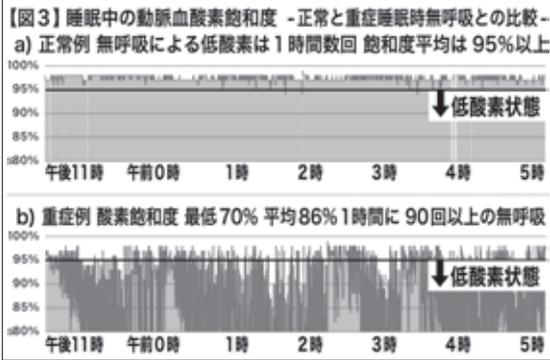
睡眠中の無呼吸
まず、睡眠中の10秒以上の呼吸停止を「無呼吸1回」としています。**閉塞性睡眠時無呼吸症候群**

上気道の閉塞による睡眠中の無呼吸が(低呼吸含む)1時間に5回以上で軽症、15回以上で中等症、30回以上で重症と定義されています。

【実例示す】

【図3】をご覧ください。上段に正常例、下段に重症の閉塞性睡眠時無呼吸症候群の睡眠中の動脈血酸素飽和度の経過を示します。一月に本誌で紹介した「指輪型パルスオキシメーター」で計測した結果です。上段では酸素飽和度は低下しませんが、下段の記録では無呼吸のために睡眠中ほとんど低酸素状態になっています。1時間に無呼吸30回以上で重症判定のところ、無呼吸が推定で90回以上(！)起きています。酸素飽和度が70%という数字は、意識がある時に息ごらえをしても、苦しくて再現できないほどひどい低酸素の状態です。

【放置すると重大な結果を招く病気】
無呼吸と肥満の関係を中心に、

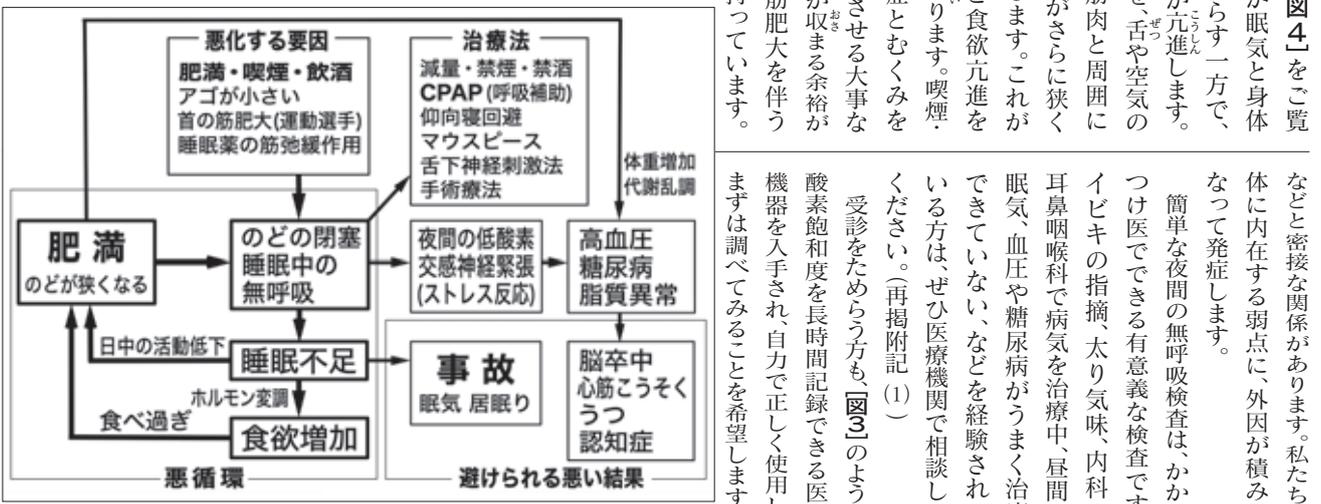


問題点を整理した【図4】をご覧ください。睡眠不足が眠気と身体活動量の低下をもたらす一方で、ホルモンの変動で食欲が亢進します。これが肥満を悪化させ、舌や空気の通り道の壁を作る筋肉と周囲に脂肪が沈着し、上気道がさらに狭くなり、無呼吸が悪化します。これがさらなる活動低下と食欲亢進をもたらす「悪循環」に陥ります。喫煙・飲酒は上気道の炎症とむくみをもたらし、病気を悪化させる大事な要因です。顎が小さく舌が収まる余裕が少ない小柄な女性、筋肥大を伴う運動選手もリスクを持っています。

夜間睡眠中の酸素欠乏は交感神経を緊張させ、体を休めるべき夜間に心臓血管を叩き、血圧、血糖を上げ、体をいわば「戦闘モード」にしてしまします。これが脳卒中や心筋梗塞を招きます。精神神経科領域ではうつ病、認知機能低下や認知障害を起すことも指摘されています。

閉塞性睡眠時無呼吸症候群はヒトの進化や飽食、肥満、喫煙、飲酒

【まとめ】



【図4】閉塞性睡眠時無呼吸症候群と肥満の悪循環

「自縄自縛」は外から縛られるのではなく、自分が自分を苦しめる状態ですが、本人に苦しみの自覚がないのに「自分の肉体が自分を苦しめる」不思議な病気を、普通の医療記事とは異なる切り口で紹介しました。

まずは自分の体の状態に気づくことが、苦から逃れる第一歩です。

【附記】

(1) 簡単に示しましたが、閉塞の原因は舌のみならず軟口蓋、扁桃腺、咽頭側壁などの相互作用です。一般向けの詳細な解説や最寄りの専門医療機関検索はこちらをごらんください。筆者は本疾患の関連企業などと利益相反はありません。

① 無呼吸なおそら.com(ティン社) <https://659naoso.com>

② 無呼吸ラボ(フィリップス社) <https://mukokyu-lab.jp>

③ 日本循環器学会 睡眠呼吸障害の診断・治療に関するガイドライン(専門的)

(2) 2003年の山陽新幹線オーパラン、2012年の関越自動車道ツアーバス事故が知られています。

(3) 『華厳経』の教訓註釈書より。「自己因果思想の源流は『マハパダ』第165偈に認められます。華厳経では如来蔵思想の「本来清浄心を自ら覆う」譬喩として示されています。

(4) 本山版『正法眼蔵』第六行佛威儀 P.63 2行目 大法輪閣 2019年。

テレホン法話 (〇八九七 四一・〇〇三三) 禪のたより



◆ 恩師を偲び

今回は私の恩師である井上輝之先生を偲び、ご遺族ご親族、またご縁のある皆様のご供養の一助になればと思い、お伝えした事をお話させていただきます。菩提寺の方丈様より「普照院輝徳玄修居士」という戒名をいただくことができました。

この戒名は亡くなられて名前が変わるということでは無く、お釈迦さまから連綿と受け継いできた「戒法（佛様としての生き方）」を方丈様からお授けされ、先ず佛弟子に成つていただき、故人を佛様としてお迎えし、佛様としてこれからご供養させていただきますという事です。それは故人がそのまま皆様を佛道、佛様の道に導いて下さる存在に成る。という事です。それが成佛「佛様に成る」という意味です。ですから戒名の一字一字が先生の歩まれた人生に、戒法をお授けされて佛様のお徳として表されたお名前になります。

「普照」は「普く照らす」佛様の教えはよく「月」の光に例えられます。そして「月」は慈悲も表します。

お月様の優しい光が一滴の草露も、大海も全てを照らす様に、そして満ち欠けを繰り返すお月様の様に、どんな時にも、例えば元気な時も病の時でさえも、先生はその穏やかな笑顔と心で、常にどんな人にも分け隔てなく思いを寄せてこられました。そういう先生と出会った人は全て先生に導かれ、同じように穏やかな笑顔と心に成られたことでしょう。

これは教員である時も、教育関係の要職、趣味の集まりでも、地域のお役、また菩提寺の護持会長の時も、佛様の光明が全ての生きとし生ける物を普く照らし、全てを生き生きと輝かせて下さるみ佛様のお姿でした。それは先生の本来の純粹な心に、真摯に歩まれた人生から一つ一つ積み上げてこられた人格であ

り、戒名通り「輝く徳」です。

そして「玄修」の「玄」は幽玄の「玄」、修行の「修」という字です。「玄」には「天」「奥深い」という意味があります。「天」のように全てを受け入れる、人としての大きさ、奥深さを表します。出会う人や物、全てを照らすという事は、全てを受け止めて自分の事として天のように修めて行くのです。

私はそういう生き方を示して下さった恩師と呼べる人との出会いに感謝し、先生を文字通りこれからの人生の先生、お手本として、全ての人の人生に思いを巡らして生きて行きたいものです。それがご恩返しです。たとえ月は雲に隠れても沈んでも私たちが照らし続けています。喜怒哀楽あつてこそ人生は深まっていきます。生まれ変わって、もう一度先生とご縁をいただき「門原和尚、あれからよう修行したのオ」と言っていたいただきたいものです。

普照院輝徳玄修居士 願わくは来世にてまた会わん。

喝

後堂 門原 信典

令和八年二月一日 十日

◆ 寒行托鉢

二十四節気大寒の前日、一月十九日、瑞應寺僧堂恒例の寒行托鉢が始まりました。私は翌々日の二十一日に参加しました。

仏教徒であれば、お釈迦さまのご生涯の中で、好きな場面がそれぞれにあると思います。

天地を指さし「天上天下唯我独尊」と宣言されるお誕生のお姿、苦行にやつれて山を下るお姿、菩提樹のもとで明星に照らされて悟られる場面、鹿野苑で五人の修行者に初めて説法をされる、或いは、靈鷲山で説法をされる場面、頭を北に右の脇を下に横たわり亡くなつていかれる場面。さまざまありますが、私はお釈迦さまが托鉢で歩かれたお姿を特に慕っています。

金剛般若波羅蜜経は、お釈迦さまが托鉢を行じて帰つてこられた場面から始まります。「お袈裟を身に着け、鉢を持ち、舎衛大城に入り、其の城中で乞食をし終わつて、もとの処に還つて、食事を終え、衣鉢を収め、足を洗い終えて座に坐られた」ところまでが第一で、第二からは長老須菩提の問いに応じて、教え

が展開されていきます。

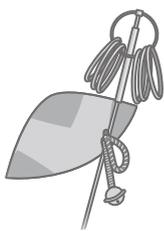
お釈迦さまが托鉢をされた場面が想像され、いま私が二千五百年前のお釈迦さまの修行を真似させていただいていることが、とても有り難く感じるのです。

托鉢はただの物品のやり取りではありません。施す人、受け取る人、それぞれが執着心や功德を求める心を離れる修行の姿であり、信者さんとお坊さんと品物の三つがわだかまりなく手渡される状態を「三輪清浄」と言います。

大寒の冷たさに体がびっくりしないよう、冬でも靴下とステテコは履かないようにしています。とはいえ草鞋履きの足先や鉢を持つ指先は凍えるようでした。ただ同時に、托鉢を通じてお釈迦さまへの親しみを感じ、喜びも大きいのです。歩ける限り寒行托鉢を続けてまいりたいと思つています。

監事 阿部 信宏

令和八年二月一日 十日





■三朝大般若祈禱

正月一日より三日間、朝課時法堂にて大般若転読祈禱を厳修。檀信徒の皆様のご繁栄と諸縁吉祥を祈願いたしました。

■寒修行托鉢

恒例の寒修行托鉢が一月十九日(月)より修行され、山内大衆、役寮諸師共に、上部地区を中心に浄行乞食。浄財施者十方檀那に深謝。



■高祖降誕会

一月二十六日(月)、高祖降誕会を厳修。

■涅槃撰心

二月一日(日)より五日間、恒例涅槃撰心を修行。一山竜象衆、積尊報恩の只管打坐。供養点心菓子等、会中の施主に深謝。
令和八年涅槃撰心供養施主(順不同)
愛媛県 禅興寺 殿



高祖降誕会

■涅槃会

- 愛知県 森川法雲 殿
- 愛知県 宝泉寺 殿
- 山口県 眼法寺 殿
- 愛媛県 伊藤佳代子 殿
- 当山 梅花講 殿
- 当山 総代会 殿
- 鳥取県 玉泉寺 殿

積尊入滅の聖日、涅槃会を厳修。

二月十四日(土)、涅槃会連夜誦經、十五日(日)、暁天、祝朝課、鎮守誦經に次いで涅槃会献粥誦經規範に準じ厳修。午時、金岡山主のもと涅槃会正當誦經。

■金毘羅初大祭

二月二十六日(木)(旧一月十日)は当山鎮守金毘羅大権現初大祭。午前十一時、午後二時に上殿して山門鎮静、修道無難を祈願。

一月の日鑑

- 一日 大般若祝禱誦經 歳朝人事・年賀ノ拜
- 二日 角野消防団初祈禱 寿餅ノ拜
- 三日 日曜参禅会
- 四日 年頭総代会
- 五日 参玄会(八日迄)
- 六日 ボーイスカウト研修
- 七日 おねはん受付開始
- 十一日 日曜参禅会 祝禱・略布薩
- 十五日 観音講(仏教勉強会)
- 十八日 日曜参禅会
- 十九日 寒行托鉢
- 廿五日 日曜参禅会
- 廿六日 高祖降誕会
- 卅一日 略布薩

二月の日鑑

- 一日 祝禱 涅槃撰心(五日迄)
- 八日 日曜参禅会
- 十四日 土地堂念誦・涅槃会連夜
- 十五日 祝禱・小参・人事行礼 涅槃会・略布薩
- 十八日 観音講(仏教勉強会)
- 廿二日 日曜参禅会
- 廿六日 金毘羅初大祭
- 廿八日 略布薩

三月の予定

- 一日 祝禱 日曜参禅会
- 三日 福島県青年会団参
- 四日 参玄会(六日迄)
- 八日 日曜参禅会
- 十五日 祝禱 常葉会(おねはん) 日曜参禅会
- 十八日 観音講(仏教勉強会) ひかり幼稚園修了式
- 廿二日 萬霊塔供養 日曜参禅会
- 廿七日 東予信用金庫新人社員研修
- 卅一日 卅一世大孝徳存大和尚大夜 卅一世大孝徳存大和尚本葬儀

四月の予定

- 一日 祝禱
- 五日 日曜参禅会
- 八日 積尊降誕会 ひかり幼稚園入園式
- 十二日 日曜参禅会
- 十五日 祝禱・略布薩
- 十八日 観音講(仏教勉強会)
- 十九日 日曜参禅会
- 廿五日 金毘羅前夜祭
- 廿六日 春季金毘羅大祭
- 卅日 日曜参禅会 略布薩



鐘声

大寒の寒行托鉢に涅槃撰心と、悉く寒波襲来に見舞われ乍らも不魔円成。寒さ気な木々に目を向けると新芽蕾が少しずつ膨らんでいる。今年は全国的に寒さも厳しく心配したが、無常の有難さを感じる。

春秋彼岸にはそれぞれ万霊塔宝篋印塔での供養法会にて多くのご遺族ご参列者と読経焼香。お彼岸の一週間は六波羅蜜(布施・持戒・忍辱・精進・禅定・智慧)を修行する報恩仏事として聖徳太子の頃から相統する。

古くから両彼岸に盆暮れ正月はお墓参りが欠かせなかつたが、最近では墓ジマイに仏壇ジマイ、実家ジマイという言葉まで聞こえてきた。お墓にせよ仏壇にせよ、小さい頃には何とも言えない恐ろしさを感じていたが、それは何より「畏怖の念」ほとけの御いのちを肌で感じていたのであろう。

仏事ジマイが続いてしまうと手を合わすことも無く、皆怖いもの無しに。御いのちの尊さを何時感じるのであらうか。

時代が変化すると、変わらぬ僧堂の生活が不可欠。

「行き行きて彼岸をば行く。彼岸をば、もろもろと行くこそサトリなれ。ソワカ」 (道)

